

・都市と生物多様性クリチバ会議（2007年）

主催： クリチバ市、国連生物多様性関連機関委員会（Inter-agency Task Force）

参加： 7カ国の21都市、国連機関

宣言： 条約の目的と2010年目標達成には、世界の自治体の参加が不可欠。

「都市と生物多様性イニシアチブ」運営委員(steering committee)を選任。

（モントリオール市長、クリチバ市長、ボン市長、名古屋市長）

*COP9への布石として、企業に続いて都市についても「イニシアチブ」を立ち上げた。

・都市と生物多様性市長会議（Mayor's Conference on Cities and Biodiversity）

主催： ボン市、InWent（公益法人国際向上教育・開発協会）、ICLEI

参加： 28カ国の46都市、国連機関・政府機関・学術機関など30団体（計153名）

宣言： ①「都市と生物多様性」は、国連機関、地方自治体、その他のパートナーからなる世界的なイニシアチブ。

②生物多様性の管理・保全のため、技術連携、能力開発プロジェクト、情報交換、共同支援を通して、市、町、郡および関心のある地方政府の潜在力向上を目的とする。

③生物多様性条約締約国会議の開催都市は、他の地方自治体を招待することにより、その責務を示すよう求められる。

*クリチバ宣言を受けて開催（COPと同時開催の都市会議としては初めて）。

条約事務局は、都市間交流もさることながら、COP9での決議への布石を企図。

・COP9決議「都市・地方政府の参画促進」

（IX/28. Promoting engagement of cities and local authorities）

留意（Noting）：

クリチバ会議

国連機関の貢献（UN-Habitat、UNESCO、UNEP、その他）

自主的イニシアチブの重要性

（ICLEI-LAB、カウントダウン2010、UCLG、WMCCC、Metropolis、CCCLG）

認識（Recognizing）：

主要都市間の協力の重要性（ボン、クリチバ、モントリオール、名古屋）

奨励（Encourage）：

地方の生物多様性戦略・行動計画の策定への支援

招請（Invite）：

地方開発プロジェクトにおける生物多様性への配慮

自治体による地域行動促進への支援

ツールやガイドライン利用、多様性情報編集における都市・自治体の関与

*「都市と生物多様性」ムーブメントを支える要素として、「国連機関、自主的イニシアチブ、4都市によるSteering Committee」を認知した。

都市と生物多様性 — 行動のためのボン宣言（抄）

◆生物多様性のための真のパートナーシップに向けた地方自治体の協力

地方自治体は、世界の半数の人々の意思を象徴する。都市は、生物多様性条約の実施を着実に促進するため、協力しようとしている。

◆重要な役割を担う地方自治体

地方自治体とそのネットワークは、生物多様性の管理に関し地域的にも世界的にも重要かつ責任ある役割を担っている。

◆脅威にさらされている都市の生物多様性

都市の生物多様性も、地球規模の生物多様性や生態系と同程度の脅威にさらされている。

しかしながら、都市は、生物多様性をはぐくみ豊かにするための潜在力を高めている。

◆都市生活の根底をなす生物多様性

生物多様性を保全することは、環境面で有益だけでなく、都市に様々な社会経済的利益をもたらす。

これからの都市テクノロジーは、人間と自然との調和（開発と生物多様性との融合）という考え方にかなうものでなければならない。

◆地方自治体の潜在力の発揮

生物多様性の保全および管理のため、地方自治体は自らの責任を自覚し、その潜在力を活用する。

◆地方自治体の啓発と利害関係者の参画促進

地方自治体は市民から権限を付与されている。この立場を最大限に活用し、市民の意識や行動に影響を与えることができる。

◆地球規模で連携する地方自治体

世界中の市長および意思決定権者は、生物多様性の保全に向けた地域の戦略において、連携することを約束する。

◆地方自治体に関する枠組み整備の必要性

世界的な生物多様性イニシアチブの管理に向け、地方自治体は、その責務、影響力、行動、そして連携を確かなものにすることを提案している。

地方自治体は、州、国、さらにその上位の国際機関に対して、枠組みを整備するよう依頼している。

◆パートナーシップの価値—「都市と生物多様性イニシアチブ」

「都市と生物多様性」は、国連機関、地方自治体その他のパートナーからなる世界的なイニシアチブであり、生物多様性の管理と保全のため、技術連携、能力開発プロジェクト、情報交換、共同支援を通じて、市、町、郡および関心のある地方政府の潜在力向上を目的としている。

◆生物多様性条約締約国会議開催都市による、国際的な連携の支援

生物多様性条約締約国会議の開催都市は、他の地方自治体を招待することにより、その責務を示すよう求められている。

2008 ボン会議（「都市と生物多様性」市長会議）の参加者

	自治体	学術・専門機関	政府機関等	国連・その他
欧州 (旧ソ連を含む)	10カ国17自治体 独 (ボン、ベルリン、ライプツィヒ、フランクフルト、 ハイデルベルク) 仏 (イル・ド・フランス地方、セーヌ・サントニ県、大ダルク) 蘭 (アムステルダム、テイルブルグ)、伊 (ローマ) ベルギー (リンブルフ州)、ポルトガル (モイタ自治体) ルウェー (トロントヘム自治体)、クロアチア (ザグレブ) ベラルーシ (ミンスク)、ウズベキスタン (ブハラ)	独： フライブルク大学 エアフルト専門大学 バイエルン州立動物学コレクション スウェーデン： スtockホルム大学 ウプサラ大学 ポーランド： 中東欧地域環境センター	独： 環境自然保護省 自然保護局 都市開発省 連邦技術協力機関 国際向上教育開発協会 ベルギー： 自然森林管理局	CBD事務局 (カナダ) UNEP (英、ケニア) UNDP (米) UN-HABITAT (ケニア) UNFCCC (独) UNESCO (米) UNU (米)
アフリカ	8カ国12自治体 南アフリカ(4)、ナミビア、ケニア、ウガンダ、タンザニア マリ(2)、ガーナ、ブルキナファソ		西アフリカ諸国経済共同体	ICLEI (日、独、加、南ア) IUCN (仏、ベルギー、スイス) GEF (米)
北米	2カ国4自治体 アメリカ (シカゴ、ポートタウンセント) カナダ (モントリオール、バンクーバー)	「都市と生物多様性」は、 国連機関、地方自治体、その他のパートナーからなる 世界的なイニシアチブ。 (2008.5 ボン宣言)		公益法人 国際向上教育・ 開発協会 (独)
中南米	3カ国5自治体 ブラジル (3)、ボリビア、ペルー			ベール基金 (独) 南北フォーラム (独) 生物多様性財団 (西)
アジア (含、中東)	5カ国8自治体 日 (名古屋、愛知)、韓 (チャンウォン) 印 (ムンバイ、プネ)、比 (サンフェルナンド、マカティ) イスラエル	印： バラティ環境教育調査機関 スリランカ： 国際水管理研究所	シカゴポール国立公園	
オセアニア	—			
合計	28カ国46自治体	8機関	8機関	14機関・団体

世界の「現実・関心」は、実に多様！

途上国 A (人口急増、貧困＝環境悪化地域拡大) / 途上国 B (計画的な努力が進行中) / 先進国 (成熟化、多様性回復の兆し)

< 途上国 >

- ・ 貧困増大
 - ・ 政情不安
 - ・ 一部地域での経済発展
- ➡
- ・ 都市への人口流入、都市開発の加速
 - ・ 都市における貧困地域の拡大
 - ・ 都市開発への知識不足
(行政のノウハウ、住民の基礎知識)

生態系＝生活基盤の衰弱 (危機の悪循環)

- ・ 食糧・燃料不足 → 伐採・乱獲 (森林・水産・動物資源)
- ・ 水不足・水質悪化 → 衛生危機&水産資源危機
- ・ 廃棄物の不適正処理 → 衛生危機&生態系かく乱

途上国都市の二極化

- ◆ 危機と混乱の只中の都市 (主にアフリカ) ↔ 峠を越えつつある都市 (主にアジア・中南米)
- ◆ 計画すらつくりえない都市 ↔ 計画を持っている都市
- ◆ 貧困地区 (生態系=生活環境悪化) ↔ 富裕地区 (生態系=生活環境改善)

* 農村部等での課題

- ・ プランテーション
既存生態系の破壊 (先住民等の生活基盤喪失)
農薬の過剰投入 (生態系破壊・水質悪化)
- ・ 過剰灌漑 水系＝生態系の変化
(先住民等の生活基盤喪失)

< 先進国 >

人口圧力・開発圧力の相対的低下 (成熟化)

- ・ 生物多様性の回復が、一部の都市で見られる。
(「多様なニッチ」の存在が、新たな都市型生態系を形成)
- ・ 「巨大なフットプリント (過剰消費)」の縮小は、
建前はともかく具体的実践としては、あまり意識されていない。

ホストの心得

条約の三つの目的遂行のため
「情報交換」と「途上国都市へのノウハウ提供」



◆ 分科会構成の工夫

途上国と先進国の「関心の違い」に、留意。

◆ 相互理解促進 (脱一方通行) の工夫

一目瞭然プロフィールの作成・共有、交流展示。

2008 ボン会議（「都市と生物多様性」市長会議）での主な発言

途上国 A (人口急増＝初歩的都市問題に呻吟)	途上国 B (計画的な努力が進行中)	先進国 (成熟化＝多様性回復のきざし)
<p>ムンバイ (印) 1367 万人/603 km² 急激な人口流入で、人と自然が対立。 <u>医療・衛生の要望は強いが、</u> <u>「木が欲しい」という選挙民は少ない。</u></p> <p>エンテベ (カンガ) <u>人口増大で、ビクトリア湖の汚染・乱獲。</u> <u>都市開発の知識が不足 (都市計画もない)。</u></p> <p>ウォルビスベイ (ナミブ) 人口流入による負荷の増大。</p> <p>ヨハネスブルグ (南ア) 400 万人/1645 km² <u>貧富の差の拡大とともに、緑も偏在。</u> 水源不足、貧困増加、生態系能力の限界。</p>	<p>プネー (印) 506 万人/1359 km² <u>開発時の緑化義務</u> (500 m²超は植樹、2000 m²以上は緑地) 生息地が縮小し、都市周辺に虎が出没。</p> <p>ケープコースト (ガーナ) <u>海岸地帯は「開発への期待」も</u> <u>「保護の必要性」も、ともに高い。</u> 保護区の設定、国立公園の設置。</p> <p>ダーバン (南ア) 300 万人/2297 km² <u>'70～オープンスペース計画</u>を実施。 自然資源を観光に生かす。</p> <p>クリチバ (ブラジル) 180 万人/431 km² <u>民間所有の保護区</u>を設定 (開発権の移転)。</p> <p>サンパウロ (ブラジル) 1087 万人/1523 km² 20 世紀は生物多様性破壊の世紀だったが、 <u>都市の生物多様性は危機に瀕してはいない。</u> 百年で、人口 20 万人→1100 万人 公園 32→66 (含、自然保護公園 3)</p>	<p>* <u>ヨーロッパ都市では、鳥の生物多様性が向上。</u> (都市のニッチは、多様性の温床)</p> <p>* シカゴ、ベルリン、ストックホルム、キャンベラ、シンガポール等は、生物多様性豊かな町。</p> <p>ベルリン (独) 342 万人/892 km² 公園 55 km²、並木 40 万本。 子どもたちへの環境教育を重視。</p> <p>ハイデルベルク (独) 14 万人/109 km² 45%が森林、500 のビオトープ。 こうもり、蝶などの固有種を保護。 <u>農家に助成し緑地をつなぐ (多様性のネット)。</u></p> <p>フランクフルト (独) 67 万人/248 km² <u>緑をつなぎ生物を保護。</u></p> <p>ローマ (伊) 271 万人/1285 km² 400 km²の保護区、30 km²の公園。</p> <p>リンブルフ州 (ベルギー) <u>固有種の里親</u>を、住民に委嘱。</p> <p>イル・ド・フランス地方 (仏) 1100 万人/12,011 km² <u>土地利用計画に、森林・農地・湿地などの</u> <u>生物多様性の要素を取り入れている。</u></p> <p>シカゴ (米) 283 万人/606 km² 樹木 450 万本、並木 50 万本。<u>原生種尊重。</u></p>
<p>* 国際ユースサミット代表 先進国：巨大なフットプリントの縮小を！ 途上国：<u>生活水準向上と多様性のケア</u>を！</p> <p>* こどもサミット代表 「もう一つの地球」を、どこで買うの？ 「持続可能な生活」の授業を学校で…。</p> <p>* IUCN 国際自然保護連合 持続可能な産業を。 フットプリントを縮小するための教育を。</p>	<p>ティルブルグ市 (蘭) 開発に際し、川沿いに自然保護地。 <u>QOLが向上し、まちの経済価値も上昇。</u></p>	

2008 ボン会議（「都市と生物多様性」市長会議）の「分科会」構成

5/27 開会挨拶 (1000-1300)	I. 生活に関する生物多様性 (1430-1600)	II. 都市における生態系サービス、 経済的価値と人間の幸福 (1630-1800)
<p>国際ユースサミット代表 (18カ国参加) 先進国：巨大なフットプリントの縮小を。 途上国：生活水準向上と多様性のケアを。</p> <p>こどもサミット代表 「もう一つの地球」を、どこで買うの？ 「持続可能な生活」の授業を学校で…。</p> <p>UNEP 国連環境計画 森林減少、水源、食糧（組換作物の危険）。</p> <p>SCBD 国連生物多様性条約事務局長 都市の協力が不可欠。</p> <p>UNDP 国連開発計画 都市住民と多様性（資源利用、ごみ排出）。</p> <p>クリチバ市長 180万人／431 km²。 外来種撲滅、民間所有の保護区（開発権移転）。</p> <p>ICLEI 会長 LABを通じた情報交換に参加を。</p> <p>IUCN 国際自然保護連合 持続可能な産業。 フットプリントを縮小するための教育。</p> <p>ドイツ連邦政府自然保護局 科学研究の必要性（エアフルト会議の意義）。 学会と自治体の連携が必要。</p>	<p>ストックホルム大学教授（スウェーデン） シカゴ、ベルリン、ストックホルム、キャンベラ、シンガポール などは、生物多様性の豊かな都市。</p> <p>ババリア州立動物学コレクション（独） ヨーロッパの都市では、鳥の生物多様性が 向上しつつある。ベルリンのナインゲル、ミュンヘンの 鷹（かつては絶滅危惧種）など。</p> <p>ケープコースト地方大臣（ガーナ） 海岸湿地帯の開発と保全 （野鳥保護地の設定、国立公園の設置）</p> <p>ムンバイ市コミッショナー（印） 1,367万人／603km²。 急激な人口流入で、人と自然が対立。 医療・衛生の要望は強いが、 「木が欲しい」という選挙民は少ない。</p> <p>ラパス市長（ボリビア） 雨季には川が氾濫。 2ヵ月だった氾濫期が5ヵ月に延びている。</p> <p>名古屋市長 224万人／326 km²。 持続可能性＝ほどほどの生活＝消費。 市民協働…市民植樹、エコライフ宣言。</p>	<p>UN-HABITAT 国連人間居住計画（ケニア） 都市の生物多様性と貧困は、切り離せない。 都市のニッチは多様性の温床（NYなど）。</p> <p>エンテベ市長（ウガンダ） 人口増大で、ビクトリア湖の汚染、乱獲。 土地利用・水利用の知識が不足。 （都市計画もない）</p> <p>ティルブルグ市長（蘭） 4.5万人規模の開発に際し、川沿いを自然 保護地に。QOL向上で街の経済価値も向上。</p> <p>ヨハネスブルグ市（南ア） 400万人／1,645 km²。 貧富の差の拡大とともに、緑も偏在。 水源不足、貧困層増加、生態系能力の限界。 持続可能な都市計画、動物園で多様性教育。</p> <p>ダーバン市長（南ア） 300万人／2,297 km²。 1970年からオープンスペース計画を実施。 アフリカで最も快適な都市をめざす。</p>

5/28 III. 生物多様性のための 地域行動計画 (930-1100)	IV. 生物多様性のための パートナーシップ (1130-1300)	行動のためのボン宣言 (1430-1545)
<p>バーティ環境教育調査機関 (印、プネ市) 開発時の緑化義務 (500 m²超は植樹、2000 m²以上は緑地)。インド固有種を植樹。</p> <p>プネ市長 (印) 多様性の状況を知る。教育に力を入れる。</p> <p>ベルリン市 (独) 342 万人/892 km²/公園 55 km²/並木 40 万本。 子供は、ポテチは知っていてもジャガイモとの関係を知らない (→11 の環境教育センター)。</p> <p>リンブルフ州 (ベルギー) 住民に固有種の里親を委嘱し、生態系を知ってもらう (44 自治区で実施)。</p> <p>アムステルダム市 (蘭) 多様性管理には市民・地域団体の協力必要。</p> <p>シカゴ市 (米) 283 万人/606 km²/樹木 450 万/並木 50 万。風が強いので山火事が多く、山火事に依存する生態系。原生種を植えている。</p> <p>サンパウロ市 (ブラジル) 20 世紀は生物多様性破壊の世紀。 (人口 20 万→1100 万/面積 1525 km²) これから回復したい (公園倍増した 32→66)</p> <p>ハイデルベルク市長 (独) 45%が森林、500 のビトプ。 蝙蝠・蝶など固有種保護。 農家に助成し、緑地による多様性補形成。</p>	<p>フランクフルト市 (独) 66 万人/248 km²。 緑地保全決議 (緑地をつなぎ生物を保護)。 バイオ・フランクフルト・プロジェクト (植物園・動物園・博物館・大学・GTD・動物保護団体などの参加による保全活動)</p> <p>イル・ド・フランス地方 (仏) 1100 万人 (パリ=217 万とその近郊地帯)。 土地利用計画の段階で、森林・農地・湿地など生物多様性の要素を取り入れている。</p> <p>ライプツィヒ市 (独) 希少種アビシアンライオンを守るため、アジスアベバ動物園に対して、ライプツィヒ動物園が協力。</p> <p>ローマ市 (伊) 271 万人/1,285 km² (インナーシティ 360 km²)。 緑地 870k m²=市域の 67%。 (400 km²の保護区、30 km²の公園)</p> <p>ウォルビスベイ市 (ナミビア) 人口流入による負荷。</p> <p>サンフェルナンド市長 (比) 沿岸域にウニ (日本へ輸出)。</p> <p>モントリオール市長 (加) 185 万人/365 km²。 住宅地に隣接した採掘場→公園化。</p>	<p>CBD 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COP9 で、「都市・地方政府の参画促進」を決議。 ・各国政府と地方自治体は、条約実施の重要なパートナー。 ・リチバ、モントリオール、ボン、名古屋などを中心に、 <ul style="list-style-type: none"> ①情報交換、 ②途上国の都市へのノウハウ提供。 <p>ドイツ連邦 Agency for Nature Conversation</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部は、生態系サービスに大きく依存。 ・生物多様性の将来は、都市が決定する。 (人材が集中、資源消費の決定権を持つ) <p>IUCN 世界自然保護連合 (カウントダウン 2010)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行動」、「協力」がキーワード。 ローカルアクションが、重要。 <p>モントリオール市長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代のために、お金の問題ではなく、広い目で考えよう。 <div data-bbox="1467 1181 2072 1420" style="background-color: black; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>分科会テーマと発言内容が フィットしていない!</p> <p>(工夫・調整が必要!!)</p> </div>

2008 ボン会議（「都市と生物多様性」市長会議）

Mayor's Conference on Cities and Biodiversity held in Bonn, on 26-27 May 2008

主催：ボン市、ICLEI、InWent（公益法人国際向上教育・開発協会）

28カ国の46自治体（市長出席15） + 国際機関等30団体 = 153名

欧州 (含、旧ソ連)	11カ国 18自治体（市長3／発表11） 独（ <u>ボン</u> 、ベルリン、ライプツヒ、フランクフルト、 <u>ハイデルベルク</u> ） 仏（ <u>イルドフランス地方</u> 、セヌ・サントニ県、 <u>大タンケルク</u> ） 蘭（ <u>アムステルダム</u> 、 <u>テイルブルク</u> ）、伊（ローマ） ベルギー（リンブルフ州）、ポルトガル（モイタ） ノルウェー（トロンヘイム）、クロアチア（ <u>ザグレブ</u> ） ベラルーシ（ <u>ミンスク</u> ）、ウズベク（ブハラ）	*左記の太字は LAB参加都市。 (ボン会議欠席の LAB参加都市は 下記の通り) リスト（英） バルセロナ（西）
アフリカ	8 12（6／7） 南アフリカ（ヨハネスブルク、ケープタウン、 <u>ダーバン</u> 、エクルニ） ナミビア（ <u>ウォルヒスベイ</u> ）、ケニア（ナイロビ） ウガンダ（ <u>エンテベ</u> ）、タンザニア（ <u>ムワザ</u> ） マリ（ <u>トンブクツー</u> 、 <u>ハマコ</u> ）、ガーナ（ <u>ケープコースト</u> ） ブルキナファソ（ <u>ドーリ</u> ）	
北米	2 4（1／4） アメリカ（シカゴ、ポートタウンセント） カナダ（ <u>モントリオール</u> 、バンクーバー）	キングカウンティ（米） エドモントン（加）
中南米	3 5（2／3） ブラジル（ <u>クリチバ</u> 、サンパウロ、ポルトアレグレ） ボリビア（ <u>ラパス</u> ）、ペルー（リオネグロ）	
アジア (含、中東)	5 8（3／4） 印（ <u>ムンバイ</u> 、 <u>プネ</u> ）、比（ <u>サンフェルナンド</u> 、マカティ） 日（ <u>名古屋</u> 、 <u>愛知</u> ）、韓（ <u>チャンウォン</u> ） イスラエル（ <u>ラアナ</u> ） *他に、シンガポール（国）も参加	ソウル（韓） リバプール（豪） ジュンダラップ（豪） ワイタケレ（NZ）
オセアニア	— —	

◆第1日（10:00-18:00）

120分 (休90分)	あいさつ・報告（計10人）
90分 (休30分)	<セッション1> 専門家コメント2 + 発表4市
90分	<セッション2> 専門家コメント2 + 発表4市

◆第2日（9:30-15:45）

90分 (休30分)	<セッション3> 専門家コメント1 + 発表7市
90分 (休90分)	<セッション4> 専門家コメント2 + 発表8市
75分	まとめ（5人） ボン宣言・あいさつ（5人）